



医学部だより

第29号

2014.10.1



グローバル化の推進

医学部長 苛原 稔

大学のグローバル化推進という掛け声は簡単ですが、それでは実際にどのような取り組みを行うかになると、なかなか明確にできないものです。徳島大学医学部では次のような課題を持って、特徴あるグローバル化を目指したいと考えています。

まず、1) 海外での活躍を目指すチャレンジ精神を持った人材を学部学生時代から養成するために、学部学生の短期留学生（すでに米国、韓国、ドイツ、ニュージーランド、フィンランドなどの大学に派遣していますが、さらにフィリピンなどにも拡大したいと考えています）を倍増させたいと思います。特に医学科では、米国医師国家試験へのチャレンジコース（毎年10名程度は希望してほしい）を用意して、将来、海外で医療や研究に従事する骨太の人材を輩出したいと思います。次に、2) アジアの生命科学の研究拠点のひとつとしての徳島大学医学部の地位確立のために、外国人研究者や大学院生を積極的に受け入れたいと思います。すでに中国、モンゴル、ベトナム、中東などから受け入れていますが、これも倍増を目指してより多くの希望者を受け入れられる仕組みを整備したいと思います。さらに、3) アジアの発展途上国の医療環境の改善への支援のために、徳島大学医学部の拠点を海外に求め、外国人医師の研修の受け入れと徳島大学からの医師派遣（モンゴル、ネパールなど）を積極的に行い、アジア地区の医療の発展に寄与したいと思います。これらを3本の柱にグローバル化を推進していきたいと考えています。

その一環として、先日、従来から多くの留学生が来ている国立モンゴル健康科学大学を、数名の教授と医学科生とで訪問してきました。蔵本キャンパスとモンゴル健康科学大学の交流は、2005年に医学部同士が学部間協定（現在は大学間協定）を結んで、隔年での相互訪問がスタートし、現在に至っています。この間、約40名の留学生を受け入れ、すでに約20名が無事学

位を取得して帰国しており、大学や主要な病院で生き生きと活躍している姿をみることができました。

モンゴル国の経済はまだまだ発展途上であり、医療においても医療機器や医療技術は不十分で、日本の医療に慣れた私たちの目からは昭和30年代の医療に映ります。モンゴル健康科学大学は医学、公衆衛生、保健学などの生命科学系の学部からできており、国立大学ではモンゴル随一の規模であり、国家の期待も大きいものがあるようです。また、若い医療者や学生は将来、国を背負う気概が溢れているように思います。そのモンゴル健康科学大学に、2017年を目標に初めての附属病院が日本政府の援助で建築されることになりました。そこで、今まで関わりの深い大学として、新病院の建築および完成後の支援を考えていきたいと思っています。このたびの訪問はそのスタートになったと思います。

さて話は変わりますが、いよいよこの秋に医学部総合研究棟が完成しました。4階建ての1階にはクリニカルアナトミーラボが入ります。クリニカルアナトミーラボは献体を利用した医療技術の研修施設で、大学病院の職員だけでなく広く他の病院の医師たちにも利用できる施設になります。2階はスキルスラブを拡充するための多様な設備が入る施設として使用します。3階には保健学科の講義室、4階には医学科の講義室が入り、名実ともに医学部の改修・新築の最終型の建物として、教育、研修に有意義に使っていききたいと思っています。この総合研究棟の建設にあたっては、徳島大学病院、医学部後援会、医学科同窓会青藍会、徳島県などから物心両面のご支援をいただきました。厚く御礼申し上げます。

最後になりましたが、これからもご支援を宜しく願います。

目次

CONTENTS

巻頭言	1
海外留学体験記	2
医学部行事予定	4
モンゴル健康科学大学との教員・学生交流	5
外から見る医学部	6
オープンキャンパス報告	7
地域医療について	8
学生委員会から	9
教務委員会から	9
徳島医学会報告	10

受賞者紹介	10
OSCE 成績優秀者紹介	11
総合体育大会入賞者	11
学遊抄	12
白衣授与・Student Doctor 認定証授与式	12
数字で見る医学部	13
新任教職員あいさつ	14
新任准教授紹介	14
編集後記	14

海外留学体験記

ハノーバー医科大学 交換留学プログラム

報告

医学科4年 中嶋 広太

6月末から約5週間、ハノーバー医科大学の生化学の研究室で実習を行いました。初めは実験について英語で説明されることに理解できるか不安がありましたが、非常に熱心に教えて頂き、問題なく研究を行うことができました。研究室のテーマは糖尿病で、私が携わったのは遊離脂肪酸の細胞毒性についての研究でした。内容としては主に、ラット膵島β細胞を用いて様々な



脂肪酸を与えた際の細胞活性の変化を調べました。また教授からのリクエストで日本の医学生・医師について研究室のミーティングでプレゼンする機会があり、ドイツと日本の間の

違いや共通点について学ぶことができました。他に数日間ではありますが、移植外科で肝臓移植の手術等を見学させていただきました。手術見学はもちろん、病院での実習自体が初めてであったため、戸惑うことばかりでしたが、実際の現場を知ることができ、臨床の勉強に対して非常にモチベーションが上がりました。休日には、寮に滞在している他の学生と交友を深めたり、ドイツ国内の都市や近隣の国を旅行したりと非常に充実した時間を過ごせました。

一か月以上海外で過ごした中で自分にとって印象的だったことは、日本を外国から見る事ができたことです。普段日本の中からは気付くことのできない、日本とヨーロッパの国のそれぞれの良さを知ることができました。自国を外から見る視点を持って、自分の中で一つ大きく成長できたと感じています。

今回の留学は私にとってかけがえのない経験になりました。最後にこの場を借りて、留学にあたってお世話になった全ての先生方、職員関係者の皆様に心よりお礼を申し上げます。ありがとうございました。

テキサス大学 サマー・リサーチ・プログラム

報告

医学科4年 秋山 晋一郎

2014年6月下旬から2ヶ月間、テキサスメディカルセンター内にあるテキサス大学ヒューストン校のサマーリサーチプログラムに参加させていただきました。私は麻酔科の研究室に配属され、AHCCという物質が高血圧に及ぼす作用についての研究に従事してきました。研究室にはフランス、中国、インド、ブラジル、アメリカと各国から集まった研究者が在籍しており、国際色豊かな環境の中、刺激的な日々を過ごすことができました。日々のラボでの実験の他にラットの手術トレーニングや、隣接するメモリアル・ハーマンホスピタルでの手術見学、MDアンダーソンがんセンターの施設見学、ペイラー医科大学でのノーベル賞学者のレクチャーなど様々な体験ができ、どれも深く記憶に残る経験となりました。今回留学するにあたってお世話になりました苛原医学部長をはじめとする諸先生方、国際



課 村澤さん、ヒューストンで出会った全ての方々はこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

医学科4年 金森 公平

私はこの夏、テキサス大学のサマーリサーチプログラムに参加させていただきました。私は心臓血管外科分野への配属となりました。平日は、テキサス大学付属病院内のHeart & Vascular Instituteでの手術とクリニックでの外来患者の診察の見学、合併症に関するプレゼンとそのディスカッションへの参加に加え、胸腹部大動脈瘤の特殊な術後合併症報告を主な活動としていました。HVIでは年間症例数が多く、心臓移植など日本では稀な症例も複数回みる事が出来ました。特に大動脈瘤外科の世界的権威であるSafi先生の手術を間近で複数回みられたり、将来についてのアドバイスを頂いた事が最も貴重な体験でした。週

末はヒューストン内外の観光やホームパーティーの参加などを通じて現地の方との交流を深め、見聞を広め、多くを学ぶ事ができました。

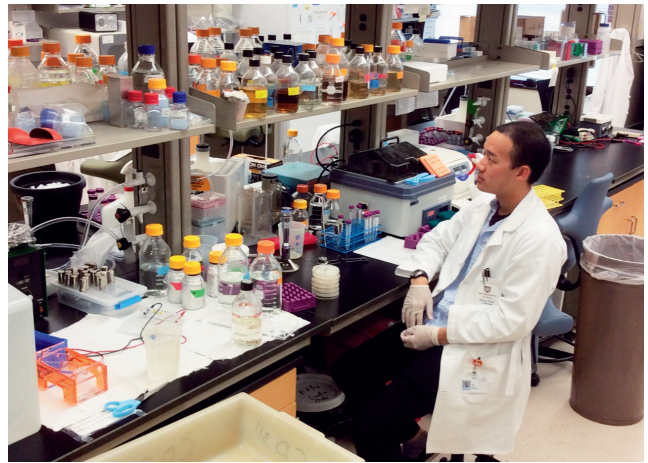
最後になりましたが、このような貴重な機会を与えて下さった苛原医学部長をはじめ、関係して下さった全ての皆様に厚く御礼申し上げます。



医学科4年 宮原圭吾

この夏、テキサス大学ヘルスサイエンスセンターのサマリーサーチプログラムに参加させて頂きました。このプログラムでは希望する研究室で2ヶ月間集中して研究活動を行い、実験手技などを学ぶことが出来ます。その他にも、プログラムに参加した現地の大学生や他国からの留学生との交流の場や、医学の様々な分野をテーマにしたセミナーを受ける機会を得られます。

私は、Integrative Biology and Pharmacology という分野の研究室に所属しました。このラボでの研究テーマは ribosome biogenesis で、私はリボソーム生合成に関するタンパク質間の interaction や化学修飾についての研究を行いました。期間中、複数の異なる実験系を同時進行し、忙しくも充実した日々を送りました。また、メンターの裁量で主体的に実験を進めさせて頂き、大変貴重な経験となりました。



最後になりましたが、今回の留学にあたりお世話になりました苛原医学部長、国際課の村澤さんをはじめとする皆様に厚く御礼申し上げます。

ソウル国立大学校医学大学 クラークシップ・プログラム 報告

医学科3年 安琪 尔

私は7月28日から4週間、ソウル国立大学校附属病院眼科に、研究室配属の一環として、外来見学と手術の観察を行いました。



韓国の医局では、教授が複数人おり、外来見学では、それぞれの教授の隣につき、各分野の専門疾患についてフェローに説

明をいただく形でした。また、韓国の外来現場では、診察室3つが扉でつながっており、それぞれの診察室にレジデント1、2年目が外来準備・患者さんの誘導を行った上で、教授が3つの診察室を往復して患者さんを診察するというシステムでした。また、日本の眼科学教室でもそうですが、女性医師がとても活躍していました。診察の合間に、教授やフェローと韓国の医学教育や医師の労働環境、韓国文化など多彩な話題で盛り上がりました。休みの日は欧米やアジアの留学生と、ソウル観光を行い、充実した短期留学となりました。国際課の村澤さん、勢井教授、学務課の皆さんのサポートがあつての留学で大変感謝しております。



医学科3年 大越 瑞穂

私は Elective Clerkship Program を通して、8月中旬から2週間ほどソウル国立大学校医学大学に留学させていただきました。

臨床薬理学の研究室に配属させていただき、主に治験やスクリーニングの様子を見学しました。臨床を全くやっていないのであまり理解できないのではと不安だったのですが、一から原理を教えていただけました。その上で、個人的な薬物投与量を算出するプログラムを見せていただきました。また意思疎通ができるか心配でしたが、先生方は英語を使ってたくさん話しか

けてくださいました。仕事終わりにはいつも食事や飲みに来て行ってくださり、様々な角度から韓国の文化を知ることができました。彼らの考え方や仕事の様子から色々なことを学んだ留学となりました。



最後になりましたが、今回留学するにあたってお世話になりました苛原稔医学部長、国際課の村澤コーディネーターをはじめ、諸先生方に厚く御礼申し上げます。

医学科3年 佐藤 公美



7月30日～8月28日までの間、ソウル国立大学校医学大学のクラークシップ・プログラムに参加させていただきました。留学中は、勉強にもしっかり取り組み、観光も沢山楽しんで、本当に充実した日々を送ることができました。当初は、新生児学のみを体験させていただく予定でしたが、先生方のご厚意により、産婦人科も体験させていただきました。新生児学では、回診やカンファレンスに参加したり、患者さんのカルテを英語に纏め直して教授に発表する、等の多岐にわたる経験をさせて頂きました。産婦人科では、帝王切開やがん切除手術の補助をさせて頂いたり、内視鏡手術を見学させて頂いたりと非常に貴重な体験をさせていただきました。

今回このような貴重な機会を与えてくださった苛原医学部長、勢井教授、村澤様はじめ、諸先生方に厚くお礼申し上げます。



医学科3年 東 沙葵

わたしは7月末より三週間ソウル国立大学校医学大学のサマーリサーチプログラムに参加させて頂き、神経内科の神経筋部門の Sung 教授の下でお世話になりました。一日は朝の conference から始まり、Lee 教授の EP reading への参加と NCS や筋電図、IOM の見学など電気生理学的検査についての勉強、また回診や外来の見学、ALS の lab の見学などをさせて頂き、fellow の先生方の親身なサポートの下、多くを学ぶことができました。カリキュラムはもちろん、その他でも先生方と話させて頂いた中で大きな刺激を受けました。休日はソウルを観光したり lab のメンバーがご飯や遊びに連れて行ってくれたり韓国を満喫しました。3週間という短い間でしたが、全てが様々な出会いと気づきに満ちた素晴らしい経験でした。最後になりますが、このような機会を下された苛原医学部長、勢井先生を



はじめ、諸先生方に深く御礼申し上げます。(写真: fellow の先生方と)

医学部行事予定 (平成26年10月～平成27年3月)



- 10月1日(水) 後期授業開始
- 10月29日(水) 解剖体慰霊祭
- 11月2日(日) 徳島大学開学記念日
- 11月1日(土)～3日(月) 大学祭
- 11月4日(火) 第109回医師国家試験願書受付 (11月28日(金)まで)
試験日: 2月7日(土)～9日(月)
- 11月28日(金) 第98回助産師国家試験願書受付 (12月19日(金)まで)
試験日: 2月19日(木)
- 第101回保健師国家試験願書受付 (12月19日(金)まで)
試験日: 2月20日(金)
- 第104回看護師国家試験願書受付 (12月19日(金)まで)
試験日: 2月22日(日)
- 12月15日(月) 第67回診療放射線技師国家試験願書受付 (1月5日(月)まで)
試験日: 2月26日(木)
- 第61回臨床検査技師国家試験願書受付 (1月5日(月)まで)
試験日: 2月25日(水)
- 12月25日(木) 冬季休業 (1月7日(水)まで)

- 27年
- 1月上旬 第29回管理栄養士国家試験願書受付 (1月中旬まで)
試験日: 3月下旬
- 1月17日(土) 大学入試センター試験 (18日(日)まで)
- 2月25日(水)～2月26日(木)
入学試験 (前期日程)
- 3月12日(木) 入学試験 (後期日程)
- 3月18日(水) 医師国家試験合格発表
- 3月23日(月) 卒業式・大学院修了式
- 3月25日(水)～3月31日(火)
学年末休業
- 3月25日(水) 助産師、保健師及び看護師各国家試験合格発表
- 3月30日(月) 診療放射線技師及び臨床検査技師国家試験の合格発表
- *管理栄養士国家試験の合格発表は、5月上旬

モンゴル健康科学大学との教員・学生交流

国際課 国際コーディネーター 村澤 普恵

8月19日から22日にかけて、苛原稔医学部長を団長とする医学部訪問団がモンゴル健康科学大学（ウランバートル）を訪問しました。

モンゴル健康科学大学との交流は、2005年の医学部間交流に始まり、2007年に大学間協定締結後大学間交流に発展しています。医学部間の教員・学生交流は、2006年に訪問団がモンゴルを訪問して以来、毎年交互に訪問し合う形で交流を続け、今回で7回目となりました。

このたびの訪問は、昨年、バトバートル・ゲンチン新学長の下新体制になり、また本年6月モンゴル健康科学大学が、英語名称を Mongolian National University of Medical Sciences に改称して以来初めてのことでした（旧：Health Sciences University of Mongolia）。

8月20日には、苛原医学部長が、バトバートル学長、アマルサイハーン副学長、ムンフバヤルラフ医学部長と、それぞれ今後の両大学の交流について協議し、徳島大学が、2017年に新しく完成するモンゴル健康科学大学附属病院の運営に協力することや留学生受け入れ等で合意しました。その後、教員と学生によるシンポジウムが行われました。21日には、徳島大学卒業生の同窓会（MAUTA）とミーティングをし、同窓会メンバーと更に緊密に連携し両大学の交流を深めて行くことなどが話し合われました。

来年は、交流開始10年目となる節目の年となるため、バトバートル学長を徳島に招へいし、記念シンポジウムを開催する予定です。



徳島大学訪問団とモンゴル健康科学大学教員による記念撮影

苛原稔医学部長（左から7人目）とアマルサイハーン副学長（左から8人目）を囲んで



モンゴル健康科学大学医学部学生との交流

藪野淳也君、塚本大志君、吉田規朗君、宮本和恵さん、大久保綾香さん、小和田実君（前列左から）



モンゴルの大草原でラクダに乗る宮本さん



シンポジウム・オープニングセレモニーで阿波踊りを披露する

小和田君、藪野君、塚本君（左から）



シンポジウム・オープニングセレモニーにてアマルサイハーン副学長、バトバートル学長、苛原医学部長（左から）

外から見る医学部



知るよろこび

徳島大学名誉教授
川島病院 島 健二

大学人は何故研究に没頭するのであろうか。診療、教育、研究と、多くの医学部教官は一人3役を演じるよう求められるが、どこに軸足を置くかは人によって若干異なる。しかし、研究で一定の成果を挙げることは、大学人にとっての minimum requirement で、研究成果のない大学人は歌をさえざらないカナリアのようなものだと比喻されたりもする。

学会で名を馳せたい、科学研究費を獲得したい、大学人としての昇進のためなど、研究への incentive は種々のものがあり、皮相的にはこれらのものが入り混じっているであろう。勿論、医学の進歩に貢献したいという崇高な思いもある。このような、ある意味世俗的ともいえる動機のみで、人は夜遅くまで、また、家族を省みることなく、研究に打ち込めるのであろうか。研究に没頭さす刺激はもっと根源的なもののように思える。

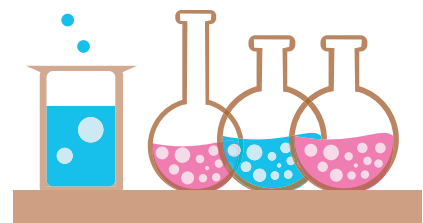
人は未知への遭遇を求め、また、自己の可能性を確かめたいという冒険心を生まれながらに持っている。山の向こうの青い鳥を求めて、命を賭しての冒険、この肉体的冒険心は万人が持つある意味魂に宿っている願望である。勿論、プロの冒険家から市井の好事家までいろいろであり、未知への遭遇時の驚き、達成感の軽重の程度は種々であるが、よろこびの質は変わらない。知的冒険も同じである。研究者を研究に駆り立てる原動力は、この知的冒険心にある。

半世紀も前に行った、消化管グルカゴン分泌動態に関する研究で、投与糖質の種類によって、血中消化管グルカゴン分泌動態に差があることが分かった時には、まさに自然の神秘に触れたよろこびを感じたのを今でも思い出すことができる。当時、腸はそれほど高等な臓器とも思われていなかった、その消化管が、グルコース、ガラクトースには反応して消化管グルカゴンを分泌するが果糖には反応しないことが分かり、腸は“賢い臓器”と知り、その神秘さに心の琴線にふれるよろこびを覚えた（今は、それがL細胞での受容体が糖の構造を認識していることが明らかになっている）。グルカゴン抗体の特異性の研究で、ある作業仮説をたて、それを証明しようとしたことがあったが、仮説の正しさを表す、ガイガーカウンターから打ち出される数

値を目で追った時の感動も忘れられないものとなった。Epoch-making というほどのものではなかったが、それでも自分の心の内では“やったぞ”と、自己の可能性を知りえたよろこびを感じた。

青い鳥を求めて、荒野をさ迷い、あるいは、人類未踏の険阻な山壑を踏み越えて未知の世界に遭遇した際の感動、達成感、知的冒険者も荒野や山壑はないが、それに等しい知的難関を乗り越え、自然の神秘にふれ、それまでの苦難を克服する自己の可能性への挑戦、また、そこに達した達成感、これが研究者を研究に駆り立てる駆動力である。そこで得られたよろこびは、研究者がひとり、ひっそりと嘯みしめる内なるよろこび（内的よろこび）である。研究者に与えられた最高の贈り物はこの内的よろこびであり、ノーベル賞級の発見でも、それほどでもない発見でも、研究者が味わう内的よろこびは質的には変わらない。ただ、ノーベル賞で表彰されるという外部評価からのよろこび、外的よろこびは、発見の影響力の多寡や、もろもろの因子に左右され、それも勿論、研究者の研究のよろこびを増幅させるが、内的よろこびこそが研究者のみが味わえる本当の意味でのよろこびである。

研究がすべて成功するわけではない。努力しても失敗が続くと、自分には才能がないのではないかと、落ち込むことがよくある。ただ、成功には幸運がつきものである。しかし、僥倖、棚から牡丹餅、は決してすべての研究者者に均一に振り当てられるものでなく、棚の下に行く努力をしている者のみにしか与えられない特典なのである。



オープン

Open Campus

キャンパス

医
学
科

8月7日、大塚講堂において医学科オープンキャンパスが開催されました。高校生244名(徳島県139名、四国他県29名、近畿45名)と保護者157名の参加がありました(今回は中学生の参加もありました)。当日は、苛原医学部長、安友医学科長の挨拶の後、医学科紹介、ミニ講義が行われました。ミニ講義では、本学卒業生である呼吸器・膠原病内科学の西岡安彦教授と分子病態学の坂根亜由子助教により、それぞれ臨床・基礎の立場から、ご自身の歩んで来られた道について、研究成果を交えてお話があり、参加者は非常に熱心に耳を傾けていました。その後、高校生は10グループに分かれて、医学科学生のエスコートにより、総合研究支援センターやスキルスラボ、あるいは医学科、疾患プロテオゲノム研究センター、疾患酵素学研究センターでご協力頂いた各研究室の施設見学を行いました。また、同時にアドミッションセンターの植野美彦特任准教授による保護者対象の入試説明会が行われました。今年度は、ミニ講義の内容だけでなく、概要説明でMD-PhDコース



や Student Lab コースをご紹介して研究を重視した学風を強調したためか、参加した学生からは研究に興味をもったといった感想が多く出ていました。今回参加者の熱意に接し、個人的には、さらに医学科を挙げての「おもてなし」の企画を準備しても良いのではないかと感じました。(佐々木卓也)

医
科
栄
養
学
科

台風11号が迫った8月8日(金)午前、医科栄養学科のオープンキャンパスを開催しました。幸い天候の問題もなく、総数402名(高校生243名、同伴者159名)の参加者を大塚講堂に迎え、宮本学科長の挨拶からプログラムが開始されました。次に入試委員の寺尾が、本年度改組された医科栄養学科の設置目的や新しいカリキュラム、



入試方法および卒業生の進路等を説明しました。今年のミニ講義は、まず実践栄養学分野の首藤恵泉講師に「管理栄養士は食のスペシャリスト」の題目で、管理栄養士の職務と将来像を自らの体験を踏まえて語っていただきました。疾患治療栄養学分野の濱田康弘特任教授には「実地診療における医科栄養学の活用」として、昨年に続いて医学に基礎を置く栄養学の重要性を説明していただきました。参加者は、今後の医科栄養学科の進む方向性を良く理解されたものと思っています。総参加者数は昨年とほぼ同じであり、高校生では徳島県外(28都府県)からの参加者が半数近くを占めました。講義の後、高校生の参加者は学生達の誘導により学科施設の見学を行い、さらに卒論生の中間発表を傍聴しました。同伴者の方々には、アドミッションセンター前村准教授による保護者向け入試説明会を行いました。入試状況の説明に加えて教育研究環境における徳島大学の良さをアピールされ、保護者の皆様には大変関心をもたれたものと察します。栄養学に関心を持つ全国の高校生に対して本学科から魅力ある情報を発信できるように、このような地道な取り組みを続けることの必要性を感じた次第です。(寺尾純二)

保
健
学
科

台風11号が接近し天候が危ぶまれましたが、保健学科のオープンキャンパスは予定通り8月8日(金曜日)午後、大塚講堂や保健学科棟の他、スキルスラボ、臨床第二講堂、青藍講堂を使用して開催されました。あいにくの空模様にも関わらず、当日の出席者は、看護学専攻215名(保護者52名)、放射線技術科学専攻92名(保護者70名)、検査技術科学専攻66名(保護者35名)であり、大塚講堂はほぼ満席でした。また、徳島県内だけではなく、県外からも多くの参加がありました。

学科長の挨拶、入試委員長から入学試験の概要説明、各専攻主任による各専攻の紹介が行われた後、それぞれの専攻に分かれて施設見学、専攻別相談会、体験学習が行われました。看護学専攻では、DVDにまとめた大学の施設や入学後に学ぶ学習内容や実習風景をみていただき理解を深めてもらいました。相談会では年齢の近い保健学科の学生に参加してもらい、入学後の生活や受験勉強について積極的な話ができました。また、体

験実習では聴診、血圧測定、手洗い、AED、乳房触診を体験してもらいました。他の専攻においてもそれぞれ工夫をこらして



専攻の特色をアピールし、参加者にとって有意義な半日を過ごすことができました。参加者には高校1年生や2年生も多く、保健学科で学ぶべきことや自分の将来像について理解してもらったと思います。これからも参加する高校生の目線でのオープンキャンパスを心がけたいと思います。(安井敏之)

地域医療について



総合診療医学分野紹介

総合診療医学分野 谷 憲 治

平成19年10月1日に徳島県の受託講座（地域医療学分野）としてスタートした当教室は、平成22年4月1日に徳島県の寄附講座（総合診療医学分野）に名称変更し、現在7年目の活動に入っております。現在のスタッフは、特任教授1名と特任助教4名（大学院生1名）、後期研修医4名です。開講以来、卒前教育から初期研修、そして後期研修において一貫した総合診療医育成に向けたシステム作りに取り組んでおります。卒前教育では、地域医療学および総合診療医学に関する講義と実習を担当し、地域枠入学生の卒前教育にも関わっています。さらに、私が顧問を務める医学生サークル「地域医療研究会」には100名を超えるメンバーが在籍し、定期的な地域医療施設の視察や総合診療を学ぶカンファレンス等によって総合診療や徳島の地域医療に高い関心を持つ医学生が育っており、当教室主催の研究会や医局会にも参加してくれています。卒業教育としては、徳島大学病院の初期研修プログラムにプライマリ・ケアコースを設け、1年間のプライマリ・ケア研修を行うことができます。さらに、後期研修では専門医研修プログラム「南阿波総合医・家庭医養成プログラム」（日本プライマリ・ケア連合学会認定）を作成しており、海部郡内医療施設などにおいて家庭医療専門医を目指した研修を受けることができます。総



合診療能力は臨床医すべてに求められる能力であると考えており、将来臓器別専門医を目指す医師に対しても、総合診療能力を身につけたい希望があれば当教室が受け入れ3年間程度の研修カリキュラムを提供しております。

このように当教室は、徳島県南の地域医療拠点病院である県立海部病院の総合診療部門の診療支援と地域医療の向上を目指した研究に取り組みながら、総合診療医の育成に努めております。引き続き徳島県内の地域医療施設の皆様、徳島大学および県のスタッフや住民の方々のご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

地域医療を支える医療の心

地域総合医療学分野 岡 久 稔 也

私が徳島大学を卒業した昭和62年は、医師過剰の時代でした。入局した当時の徳島大学第二内科は、循環器、消化器の診療を中心に全ての患者さんをしっかり診療し、若い人の教育にも熱心な、臨床と研究とを両立した文武両道を実践する診療科でした。「一年目の医者に主治医になってもらおうと思う患者さんはおらんわな。ほな、何をせなあかんのかな？」とよく聞かれました。正解は、「患者さんの所へ行って行ってします。」「世界最高の治療法を調べます。」でした。入局した当初より、朝、昼、夕の3回、病室へ行くのが日課でした。医療には限界があるが、この先生に診てもらって本当によかったと言われるような医療をしないとイケないと、「医療人としての基本姿勢」を教わ

りました。この伝統は今も脈々と受け継がれています。

入局3ヶ月後から海部病院、勝浦病院などで、週一回のパート勤務をさせていただきました。これらの病院では、患者さんや家族にとっても優しく、地域の中核病院の職員としての誇りを持って働いている医療スタッフや事務の方々とお会いしました。また、「この病院を信用しているから」と言って経験の少ない一年目の医師に頭の裂創を縫ってもらいたいというご高齢の患者さん始め、病院を信頼し大切に思っている住民の方々にお会いしました。これらの経験を通して、入局一年目に地域医療の大切さを学んだことが、私の医療の原点でもあるように思います。

地域医療において重要なことは、患者さんや家族への思いやりの気持ちを持ち、病院関係者が一丸となって、安心感を与えることのできる充実した医療を提供することです。昨年12月に開設された地域総合医療学分野では、公立学校共済組合四国中央病院への診療支援を通じ、医療現場の課題を抽出し、地域連携・医工連携・産学官連携によって医療機器やシステムを研究開発し、医療現場の問題点を改善していこうとしています。研修医や若い医療スタッフが、困った時には公私にわたり応援してくれる人達のなかで、これからの地域医療を支える「医療の心」をもった人に成長する場を提供したいと考えています。



● 学生委員会から ●

学生委員会は学生生活を支援するための組織であり、大学院生を含む本学医学部学生の経済的支援、トラブルに関する指導と助言、学生生活に関する表彰や懲戒、課外活動支援を担当しています。私は平成26年4月から学生委員長の任に就いていますが、3点学生諸君に伝えておくべきことがあります。第一は学生証の紛失についての注意点です。私が大学生だった1980年代の学生証は顔写真が貼附された紙製のカードでしたが、今日の学生証はICチップが埋め込まれていて当該学生に関する情報が記録されています。ICチップの内容を読み取ったり書き換えたりすることは普通の人間には無理ですが、この情報を操作して犯罪行為を行う不心得者が存在します。学生証の紛失は個人情報の流出に繋がる可能性のある深刻な出来事であることを認識して下さい。中には在学中に3度も4度も学生証を紛失する学生がいます。自分の個人情報を管理できない人間が医師として患者さんの情報を管理できるはずがありません。臨床医学を学ぶ5年生、6年生にあつては患者さんに関わる個人情報に接する機会が増えてきます。学生証をなくしたら再発行してもらえばよいと安易に考えずに、学生証の紛失は個人情報の流出であり、いずれは患者さんに関わる重要な情報を不用意に流出させることに繋がりがかねない大変な失態であることを自覚して下さい。

医学部学生委員会委員長 坂下直実

第二の注意点は各種手続きに関する書類の提出です。クラブ活動に関わる施設利用願いや遠征に関わる手続きを行う際に学生委員長の認可が必要となりますが、くしゃくしゃになった申請用紙に乱雑な字で書き殴った許可願いを提出する学生がいます。大学の施設・設備を使って何らかの活動を行う際にはきちんとした手続きを踏む必要があります。今は大学生でも数年後には臨床医として働くのですから、社会人としての一般常識を身につけておく必要があります。学生であっても白衣を着て聴診器を持っていれば患者さんにとってはドクターと何ら変わりはありません。書類の提出や許可願いについてはマナーとモラルを持って許可願いを提出するよう心がけて下さい。

最後に不正行為についての注意を述べておきます。進級試験におけるカンニング行為のみならず出席に関する不正行為も処罰の対象とされています。軽い気持ちで友人にカードリーダーの読み取りを頼んでこれが発覚した場合には、依頼した本人のみならず依頼を受けた友人も処罰の対象となって留年が確定します。不正行為に関する規定は知らなかったでは済まされません。大学内のルールとマナーを守って規律と節度ある学生生活を送って頂きたいと願っています。

● 教務委員会から ●

昨年度、藤井節郎記念医科学センターが完成し、基礎B棟3階第3・4講義室を使っていた栄養学科の学生さんが藤井節郎記念医科学センター2階を使うようになり、第3・4講義室は医学科学生の自習室として使用できるようになっております。プレハブの講義棟跡地に建設中の総合研究棟は、昨年度末には完成し、本年度4月から使用する事が出来る予定でしたが、人手不足で工期が遅れ、秋からにずれこんでしまっています。2階はスキルスラボの拡充、3階は保健学科、4階は大塚講堂の2階を使用していた医学科3年生が使用する予定です。これでようやく、医学科3年生に安定した環境を提供できるようになりました。一方、医学科の定員増から自習室のスペースは、まだまだ、充分というレベルではありませんので、さらに多方面に働きかけをしていきたいと考えています。医学部の学生による図書館のグループ学習室やミーティングルームの使用も多く、やる気のある学生達が、活発に学習している様子がうかがえます。図書館の好意で開館時間の延長もされています。学生への信頼で延長していただいているので、ルール、マナーを守って長く信頼関係が築けるように心して下さい。

医学部では、テキサス、ハノーバー、モンゴル、ヘルシン

医学部教務委員会委員長 西村明儒

キなどへの短期留学のメニューを用意しております。年々希望者が増えており、グローバル化への意識の高さを感じております。臨床実習（選択）でも海外の医療機関を希望する学生が増えています。更に昨年度あたりから、独自の留学メニューを提示する学生が見られるようになってきました。もちろん、外国であれば、どこでも良い訳ではなく、今年度からは、一定の教育効果が得られるようなメニューが用意されているものについて、教務委員会で検討し、許可するように基準を設けています。とは言え、せっかくの機会ですから出来るだけ柔軟に対応するように考えているので希望する学生は、学務課を通して相談してください。

学生がグローバル志向となるのは悪いことではないのですが、一方で日本と同じような感覚で余り危険を感じていない様子なのが危惧されます。先進国であっても、USAでは、夜間出歩くのはもってのほかですし、EUでも注意が必要です。ましてや発展途上国では、物や金だけでなく、生命の危険も想定しておく必要があります。個人的な旅行の際にも外務省のホームページなどで下調べしなければいけません。教務委員会でも注意事項を用意しているので相談して欲しいものです。

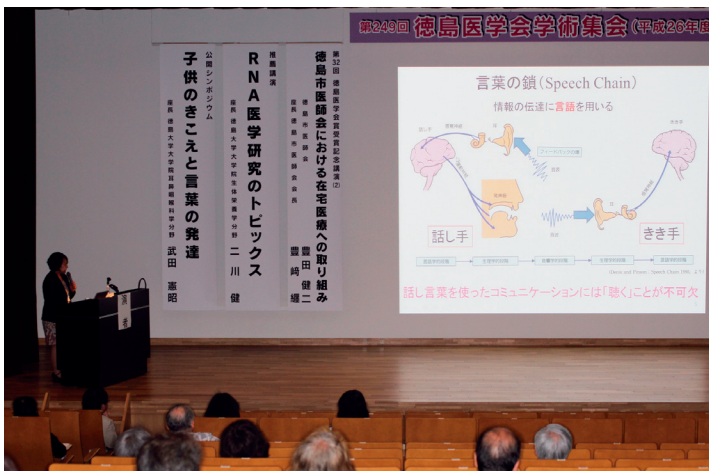
徳島医学会報告

■ 第249回徳島医学会学術集会(平成26年度夏期)

耳鼻咽喉科学分野 阿部晃治
生体栄養学分野 近藤茂忠

第249回徳島医学会学術集会は、平成26年7月27日(日)に大塚講堂で開催された。生体栄養学分野、二川健教授の開会挨拶の後、教授就任講演が行われた。まず、放射線基礎科学分野の阪間稔教授による「核・放射化学ってなに? : 原子核から分析化学、環境放射能、放射線防護・計測評価、医科学への応用、そして原子力災害復興まで」の講演が行われ、次に、微生物・遺伝子解析学分野の片岡佳子教授による「ヒトの健康保持における腸内菌の役割」の講演が行われた。引き続き、ポスターセッションでは41演題の一般演題が3つの会場で発表され、活

発な討論が交わされた。午後からは第32回徳島医学会賞と第11回若手奨励賞授与式が行われた。苛原稔会長から消化器・移植外科学分野の石川大地先生と徳島市医師会の豊田健二先生に徳島医学会賞が授与され、記念講演として石川先生による「肝細胞癌におけるSTAT4発現は細胞性免疫の制御に関与し予後因子となり得る」と、豊田健二先生による「徳島市医師会における在宅医療への取り組み」が行われた。また、川島周県医師会長から若手奨励賞が松本和久先生、今田久美子先生、宮内雅弘先生に授与された。



続いて推薦講演として、生体栄養学分野の近藤茂忠先生による「RNA医学研究のトピックス」が行われた。公開シンポジウムでは、「子供のきこえと言葉の発達」が取り上げられ、千田いづみ先生(耳鼻咽喉科・頭頸部外科)、島田亜紀先生(耳鼻咽喉科・頭頸部外科)、樋口恵子先生(徳島県立徳島聴覚支援学校・指導教諭)、宇高二郎先生(宇高耳鼻咽喉科医院、徳島県立徳島聴覚支援学校・校医)、佐藤公美先生(徳島大学病院小児言語外来、言語聴覚士)による講演が行われた。その内容は、両側中等度以上の難聴児は出生1,000人に対し、1人の頻度で発生すると言われており、難聴が早期に診断されずに療育が遅れると言語の獲得のみならず、認知や社会性の面でも発達が遅れる。そのためには早期に診断することが重要となる。演者らは、徳島県における新生児スクリーニングや乳幼児の健診における難聴の早期発見の重要性を周知させる取り組みを行っており、また難聴と診断された児に対しては、徳島大学病院小児難聴外来、小児言語外来で診察・治療・followを行っている。また、徳島県立徳島聴覚支援学校と密に連携を取り、難聴児の療育に取り組んでいる、とのことであった。公開シンポジウムには多くの一般市民が参加され、盛会であった。その後、第33回徳島医学会賞および第12回若手奨励賞の選考結果発表および閉会挨拶が耳鼻咽喉科分野、武田憲昭教授によって行われ、盛況のうちに閉会した。

最後になりましたが、徳島県医師会、徳島医学会事務局、およびご参加・ご協力いただいた関係各位の皆様へ深謝申し上げます。

◆◆ 各賞受賞者 ◆◆

■ 第249回徳島医学会学術集会(平成26年7月27日)において、第33回徳島医学会賞及び第12回若手奨励賞の受賞者が選考されました。

第33回徳島医学会賞

大 学：春名真里江
(徳島大学大学院HBS研究部生体栄養学分野)
「UCP3とHax-1の相互作用によるミトコンドリアのカルシウム濃度の調節」

医師会：坂東 智子(徳島市医師会)
「徳島市医師会の女性医師支援事業」

第12回若手奨励賞

岡田 祐輝(徳島大学病院卒後臨床研修センター)
「高校生アスリート腰椎椎間板ヘルニアに対しての経皮的内視鏡視下椎間板ヘルニア摘出術(PED)の短期成績」

猪子 未希(徳島大学病院卒後臨床研修センター)
「徳島大学病院脳卒中センターでの内頸動脈急性閉塞に対する治療戦略」

若葉会奨学賞

医療法人若葉会の寄贈の趣旨に沿い、徳島大学医学部並びに徳島大学大学院医科学教育部、栄養生命科学教育部及び保健科学教育部に在学する私費外国人留学生（研究生を含む）の、奨学に資することを目的に授与されるものです。本年度は、次の3名が授与されました。

医科学教育部 医学専攻
博士課程2年次 ALTANKHUU TUNGALAGSUVD
医科学教育部 医学専攻
博士課程2年次 Munkhsaikhan Munkhzaya
医科学教育部 医学専攻
博士課程3年次 Khashbat Delgerdalai

平成26年度 6年生OSCE成績優秀者

平成26年6月28日、臨床実習クリニカルクラークシップの総仕上げとして、6年生を対象としたAdvanced OSCEを実施しました。成績が特に優秀であった学生には、西村医学部教務委員長より表彰状が授与されました。このような臨床技能試験を通して、臨床能力の向上が期待されます。



最優秀賞 園 浦 拓 龍

優 秀 賞 加藤 悠人、山本 幸代、神田 瑞希、千田 大樹、谷 真貴子、
山上 紘規、阿部 夏季、田中由希奈、宮本 由夏

部門賞(概略評価部門) 青山 有美、吉松由布子、今倉 健、秋山 祥子、重松可南子、小淵 香織、井出裕季子
原 倫世、長谷部仁美、大川 直紀

部門賞(評点評価部門) 船橋 茉莉、武田 貴志、中野 潔、前田 悠作、百田 佳織、吉岡 尚子



第66回西日本医科学生総合体育大会

柔道部 優勝



弓道部 女子団体 準優勝



サッカー部 優勝



学遊抄 学生時代の思い出 - 2

微生物病原学分野 足立 昭夫

私が徳島大学に赴任した翌年の1996年、徳大広報（No.87、19-20頁）に「学生時代の思い出」を掲載していただいた。既に20年近くが経過しており、時の流れの速さと社会の変化を痛感している。当時の文章では、その時代の特徴や一人の若者として私がどのように学生生活を送っていたかをまとめている。良くも悪くも物事の結論（イエスノー）をはっきりさせる、主義主張のある時代であった。特に大学生にその特徴が顕著であった。今の学生諸君には想像もできないことも多々あったろう。昔は良かったと言うつもりは全くないが、周囲の目を気にせず自分の人生について真剣に考えた学生時代のことは今でも鮮明に覚えている。学生時代のあの時間が現在の私を創ったことは間違いない。

学部生時代にいろいろあったことは言うまでもないことだが、定年間近の今の私に確かな記憶として残っているのは、生涯に



東京大学医科学研究所ウイルス感染研究部教室旅行にて
(黒部ダム)

右から2番目が筆者 左から2番目が神田忠仁君

わたる真の友を得たこと、自分の将来の仕事の形を明確に意識したこと、の二つである。さらに、この二つのことは切っても切り離せない関係にあり、私の現在の職業、基礎ウイルス学研究者、に繋がっている。元気澆刺たる学生時代であるから、遊び過ぎたり失敗したりしたことも沢山あると思う。また、その反動として悩み傷ついたりしたこともあるだろう。しかし、今、細部まではっきり思い出せるのは、やはり自分の生き

がい直接的に繋がった経験だけである。進路に悩んでいた時、神田忠仁君（現理化学研究所）に出会い、二人で勉強し頑張つてウイルス学への道を切り開いたことは本当に人生の快事であった。二人いたから出来たことに違いない。ウイルス学への関心は複数の著名な医学生物学研究者の講義や書物などによって芽生えたのであるが、何か歴史に残るようなことをしようと二人で基礎から始め、毎日毎日受験勉強より一生懸命に頑張つたことを昨日のこのように思い出す。ウイルス学研究者としての道が開けた後は一直線に研究活動に没頭した（ここでもいろいろな困難が待ち受けていた）。大学時代の同級生達は私の変貌ぶりに驚き、今でも信じられないという。自分に合ったこと、やりがいのあることを見つけた時、ヒトは変わるのである。極めて当然のことであるが、学生時代は自分の生涯の目標を定めるための時間であると思う。



ウイルス感染研究部にて

白衣授与・Student Doctor 認定証授与式

医療教育学分野 赤池 雅史

平成26年3月13日、大塚講堂にて、保護者の皆様のご列席のもと、医学科4年生97名を対象に、白衣授与・Student Doctor 認定証授与式が行われました。全国医学部長病院長会議では、臨床実習前教育において所定の成績を修め、さらに全国の医学部・医科大学が統一基準を用いて共同で実施している共用試験医学系 CBT（computer-based testing）による知識の評価、および OSCE（Objective Structured Clinical Examination；客観的臨床能力試験）による技能・態度の評価に合格した医学生を Student Doctor に認定しています。Student Doctor 認定を受けた学生は、患者さんの同意を得た上で、指導医による指導のもとで診療チームの一員として役割を有しながら、5～6年次のクリニカル・クラークシップ（診療参加型臨床実習）を履修します。この制度は、臨床実習に臨む医学生に医師を目指す者としての自



覚を促すとともに、社会および患者さんに対して、臨床実習学生が一定レベルの知識と技量を有していることを示し、臨床実習へのご理解とご協力をお願いすることを目的としています。授与式では、苛原稔医学部長と安井夏生病院長から激励のお言葉があり、小林まりやさんによる宣誓に続いて、岩橋祥子さんが代表として白衣と Student Doctor 認定証を授与されました。この授与式が医療プロフェッショナルリズム教育の一環となるとともに、Student Doctor に認定された医学生が、クリニカル・クラークシップという on-the-job training によって、未来を切り開く優れた医師に成長していくことを期待したいと思います。

数字で見る医学部

◆ 入学試験（医学・栄養・保健）

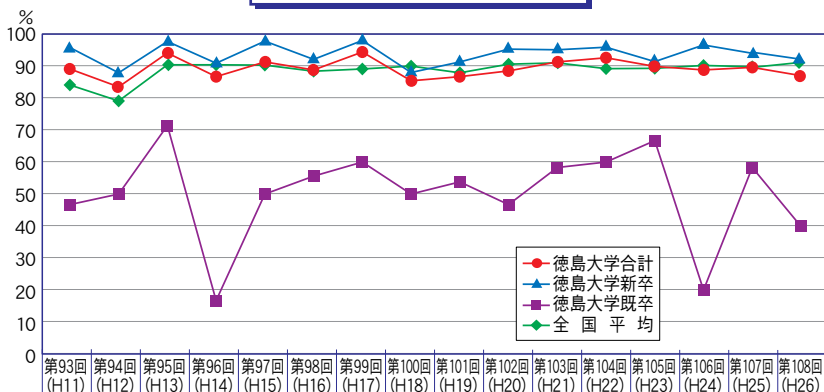
平成 26 年度 徳島大学医学部入学試験受験者・合格者数調・入学者数調

	定員	志願者	受験者	合格者数	入学者数	男	女	県内	県外	海外	現役	一浪	その他
医 学 科	114	409	314	※115	114	72	42	38	76	0	46	46	22
医 科 栄 養 学 科	50	234	177	52	50	7	43	11	39	0	40	8	2
保 健 学 科	看 護	70	276	181	77	70	63	30	40	0	57	7	6
	放 射	37	268	181	41	37	23	5	32	0	26	4	7
	検 査	17	73	65	19	17	6	11	11	6	14	3	0

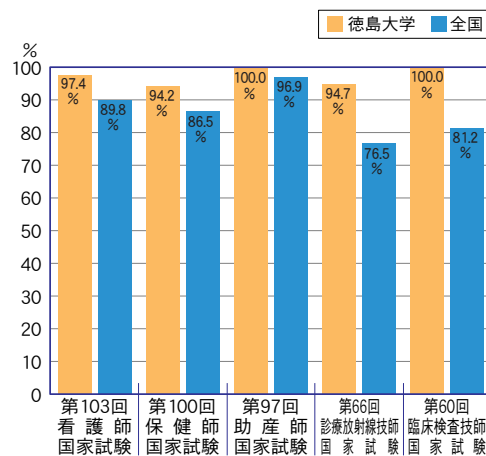
※入学手続き後、入学辞退者 1 名があったため追加合格者 1 名を出したことにより、合格者が 115 名となった。

◆ 国家試験

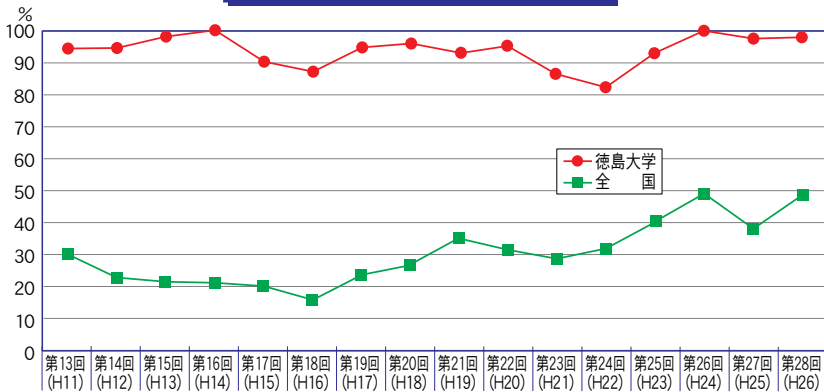
医師国家試験合格者の推移



保健学科 各種国家試験合格状況について



管理栄養士国家試験合格者の推移



◆ 科研費採択状況（医学部・病院の合計）

(平成 26 年 7 月 1 日現在)

研究種目名	平成 21 年度		平成 22 年度		平成 23 年度		平成 24 年度		平成 25 年度		平成 26 年度	
	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)
特定領域研究	4	28,900	2	8,600	1	4,800	0	0	0	0	0	0
基盤研究 A	1	11,500	1	11,500	0	0	0	0	0	0	1	8,200
基盤研究 B	15	75,500	19	92,600	19	78,900	18	80,700	16	68,200	19	74,600
基盤研究 C	69	89,800	78	82,400	87	108,800	90	109,200	96	113,100	92	111,700
挑戦的萌芽研究	5	6,300	11	18,200	23	32,800	25	31,400	22	27,800	16	21,200
若手研究 (S)	1	14,400	1	14,400	1	14,400	1	12,800	0	0	0	0
若手研究 (A)	4	19,900	4	19,100	3	19,500	3	11,500	1	5,400	3	20,300
若手研究 (B)	52	77,600	47	69,400	51	66,600	50	77,100	56	79,500	44	57,500
研究活動スタート支援	5	5,980	1	950	2	2,600	8	9,500	7	7,700	2	2,000
新学術領域研究	1	25,000	2	28,200	6	42,400	6	43,900	5	19,500	4	14,200
特別研究促進費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特別研究員奨励費	5	3,400	5	3,500	4	2,800	3	2,700	2	1,800	2	1,900
合 計	162	358,280	171	348,850	197	373,600	204	378,800	203	320,800	183	311,600

新任教職員あいさつ



地域看護学分野 教授 岩本里織

平成26年4月1日付けで保健学科看護学専攻地域看護学分野に着任いたしました。私は、愛媛県出身で、愛媛県の保健所や教育機関で勤務後、結婚を機に神戸市に移りました。神戸大学大学院を修了後に、神戸市看護大学にて10数年勤務しておりました。愛媛県保健所に勤務していた時代は、保健師として四国カルストの無医地区など農山村地域の保健活動に従事して参りました。神戸市では、震災復興住宅の高齢者の健康調査や住民の健康づくりリーダー育成事業や小学生と乳幼児のふれあい体験事業などに、地域の人々や行政と共に実践と研究に取り組んで参りました。地域看護学、公衆衛生看護学を専門領域としており、地域

における看護・保健活動やそれを実施する保健師等の専門職の支援技術の向上を目指した研究活動に取り組んでいます。徳島大学においても、大学の中だけではなく、地域に出て、多様な教育・研究活動を地域の人たちと共同して行っていきたいと考えております。徳島県は、全国でも指折りの超高齢社会を迎えており、多少な健康指標も思わしくないデータを示し、高齢化に伴う地域の変化や多様な健康課題に向けて先駆的な保健活動を実施していくことが重要であると思います。多様で複雑な健康ニーズに対応できる保健師や地域を志向した看護職の人材の育成に尽力したいと考えております。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



臨床薬剤学分野 教授 石澤啓介

平成26年8月1日付けで臨床薬剤学分野教授を拝命いたしました。同時に、徳島大学病院薬剤部長も併任いたしております。私は徳島県鳴門市出身（城ノ内高校卒）で、平成9年に岡山大学薬学部を卒業しました。平成11年に岡山大学大学院薬学研究科修士課程を修了後、薬剤師として徳島大学病院で7年間勤務いたしました。その間、薬理学分野で学位を取得し、アリゾナ大学に臨床留学する機会を頂きました。その後、薬理学分野、医薬品機能生化学分野（薬学部）で研究、教育に従事し、このたび私にとって薬剤師キャリアの原点である薬剤部、臨床薬剤学分野に戻ってまいりました。

私は薬学部生の頃より一貫して薬理学研究を行い、現在は心腎血管疾患における酸化ストレス制御を基盤とする創薬・薬理研究に取り組んでいます。安全かつ合理的な薬物治療を行うにあたり、医師、薬剤師は論理的思考力を養うことが重要ですが、臨床力の習得過程と基礎研究力の習得過程には多くの共通点があります。そこで出来る限り早期から、基礎研究力が臨床力の基盤となることを学生に教育して研究マインドを刺激し、研究力を有する医師、薬剤師の育成に努めたいと思います。また大学病院において、薬剤師が患者様に安全で最適な医療を提供できるように、円滑な薬剤部運営にも努めてまいりたいと思います。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

新任准教授紹介

異動年月日	異動内容	氏名	所属
H26. 7. 1	昇任	松浦 哲也	運動機能外科学
H26. 7. 1	採用	酒井 紀典	脊椎関節機能再建外科学



徳島大学は、学校教育法第109条第2項の規定による「大学機関別認証評価」を受け、「大学評価基準を満たしている」と認定されました。

(平成26年3月26日)

●認定評価機関

独立行政法人大学評価・学位授与機構

●認証期間 7年間

(平成26年4月1日～平成33年3月31日)

編集後記



Ebola virus disease (エボラウイルス病)の恐怖が世界を席卷している。執筆時点で患者は1,300名を越す、との報道である。未承認薬が少し効果を示し、配布が開始された。19年前、ダスティン・ホフマン主演の「Outbreak」を観たが、現実の危機が迫る。公衆衛生的対応の成否が今後を決めるだろう。戦乱のシリアでは、内戦のため既に30万人が亡くなり、毎日、100人が亡くなっている。多くが一般市民である。女性が教育を受けるだけで迫害される地域がある。幸い、われわれには研究や教育の機会が与えられ、行動の自由と安全が保障されている。だれを「成功者」と呼ぶか、定義はないが、厳しい環境に置かれた者ほど大きな物事を成した感じがする。(森口博基)

発行 徳島大学医学部 編集 医学部広報委員会
 広報委員 森口博基(委員長)、安友康二、赤池雅史、西村匡司、酒井 徹、大塚秀樹、米原壽男

本誌へのご意見・ご要望は、(総務係)E-mail:isysoumu1k@tokushima-u.ac.jp までお願いします。
 なお、写真は執筆者各位の提供により掲載しています。

Tel:088-633-9118 Fax:088-633-9028 URL http://www.tokushima-u.ac.jp/med/